



みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

新たなコミュニティ
久保野へ移転する人々

心ぶれずに歩んできた皆で
楽しいまちをつくっていきます

小春日和の大安吉日、十月三十二日、「仙台市津波被災コミュニティ移転再建事業（久保野地区）起工式」がとり行われました。移転者は、新浜地域から十六世帯、南蒲生地域から三世帯の計十九世帯。岡田小学校に通う子どもをもつ三十、四十歳代が主で、津波を怖がる子どもの平穏な生活を考えるの自主的な移転です。

移転候補地として久保野地区が浮上したのは二〇一二年九月。式典で鉄入れを行った移転代表者の瀬戸健介さん（最前列右から四番目）は、地権者との金額交渉から始めました。「地権者の方々、親身に長い期間関わってくれたコンサルタント会社など、本当にたくさんの方に助けられました」と感慨深げです。「移転者の中には震災で家族を亡くされた方がいます。自分は家族がいるだけありがたい。自分のやれることをやるだけでした」と、代表として仲間を思いました。

造成工事後の土地の引き渡しは二〇一四年五月予定。その後、いよいよ家の建築が始まります。移転する皆さんからは、早くも公園での交流会の計画が浮上しています。

2013
12月

正月の迎え方

～蒲生・岡田に残る風習・習慣～

もうすぐお正月。蒲生・岡田の方々
に伺ってみると、仙台平野沿岸部
特有の正月風習や、先祖からの教
えを今も守り続けている家庭があり
ました。地域や家庭によって異なる
お正月の迎え方をまとめました。

▲下岡田・三浦さん宅の神棚。五穀豊穡と家内安全を祈願して飾ったさきこや、柳を用いた一對の団子木が飾られています

1月 新年

初詣

地域の拠り所である寺社へ参拝

「ここいらは皆、元朝参りはお寺で墓参り。うちではその後お伊勢様(神明社)に行く」と言うのは鍋沼の吉田リツ子さん。蒲生の伊藤さんは「日和山の川口神社に行っていた。漁の神様である金比羅様の分社だから」と漁師としての気持ちを込めていまし

た。「若い頃は塩釜神社まで往復歩いた。マント被っても寒かったね」と懐かしげに語るのは蒲生の太田さん。一方で「家族が集まるから忙しくて初詣に行ったことがない」(新浜・平山造子さん)と準備に追われる女性ならではの声も聞かれました。

家族でゆっくりと過ごします

お正月の楽しみといえば雑煮やおせち料理。以前は焼きハゼ出汁の雑煮に親しむ家庭も多かったようですが「去年ハゼ出汁と鶏出汁の2種類の雑煮を作ったけど、鶏の方が評判が良かった」(新浜・造子さん)という声が多数ようです。地域に共通する雑煮の具材はアカカラ(芋ガラ)、凍み豆腐、大根類の引き菜でした。「大晦日に

大根、人参、白菜を細かく刻んで茹でておいてから凍らしておくの」(新浜・平山一子さん)。正月に包丁を使わず、静かに過ごすための配慮から来ています。

下岡田の三浦さんは、新年に初めて汲む水を料理に使う「若水」の習わしを今も大事にしています。「1升枧に米を入れ、逆さにした臼をそこに被せる。」



▲数年前の新浜・平山和夫さん宅。賑やかなお正月です

新年最初の蛇口からの水を白の上の水引をまわした新しいバケツで受け、同じく水引を結んだ柄杓で汲んで料理に使う」と話します。「うちは若水子どもたちの書き初めに使った」と言うのは鍋沼の吉田京子さん。

和田の我妻美智子さんは「正月、火を焚く時は菊ガラ(良いことを聞くように)、豆ガラ(マメに働くように)、茄子の枝(借金しても無す・返すから)を使うんだ、とおっぴさんから教わった」と話します。

三が日

家にある野菜で代用した方もいました



▲七草叩きの様子/ 絵・菊地周治さん 「高砂をあるく」より

1年間の無病息災を祈って7日朝に食べる七草粥。南蒲生の遠藤きよさんは「七草叩き一七叩き一 唐土の鳥と田舎の鳥と渡らぬ先で七叩き」と嫁入りする二十歳前、実家で耳にしたという七草を刻む際の唱え文句を、「60年ぶりに思い出した」と懐かしがりました。



▲青葉区上愛子のチャセゴ/東北歴史博物館

小正月は女の年取りとも呼ばれ、女性をねぎらう休日でした

14日の朝から餅を搗き、団子状にした餅をミズの木に差して神棚に飾る「団子差し」という風習は、元は会津地方から来ていますが、蒲生や岡田でもよく見かけられた光景でした。また、「14日夜はチャシ(セ)ゴ。厄年の人と子どもたちが近所を餅を貰いにまわった。けらんねえど、こつこのい旦

那さんすわっぴり旦那さんと囃したてた」(蒲生・みつ子さん)「チャシ(セ)ゴを楽しみにしてその日は学校から帰ってきた」(和田・美智子さん)「夜中はあかつき参りと言って、小豆粥をつくって吉産神社にお参りに行った」(新浜・和夫さん)と皆さん楽しく小正月の準備をしていました。和田では、つい最近

まで和田屋敷グラウンドでどんと祭が催されており、隣の西原からもお札や正月飾りが集められていました。他に、お正月を送る意味を持つ儀式「鳥追い」は家族でお幣束を持ち、「ホイホイホイ」と唱えながら自宅屋敷をまわるものでした。これら、小正月の風習は地域から殆ど消えつつあり、話を伺った方々からも「もう記憶が薄い」という声が多く聞かれました。

小正月

12月 年越し

正月の買い出し

買い出しは塩釜へ

岡田の鍋沼、新浜にはちょっと前まで行商人が来ており、そこで暮れの買い物をしていた方もいましたが、圧倒的に多かった声は塩釜市の仲卸市場へ行くというものでした。塩釜までの定期バスや定期船があった名残でしょうか。

「スス掃き」とも言います

一般的に20日頃から始めるものですが、「お正月様(御神像)が届く12月上旬に終わらせるものだ」と話すのは新浜の平山正志さん。「昔は貞山堀で釜を洗ったもんだ」(蒲生・平山みつ子さん)という声もありました。

大掃除

餅つき・お正月飾り

沢山餅を搗いて親戚や知り合いに配りました

27、28日は朝早くから餅を搗き始めました。それは機械を使うようになった最近でも同じで、29日は裁つ(切り分ける)日です。蒲生では昭和40年代まで「目玉あげ」と言う、櫓の木の枝に丸めた餅を差して神棚に飾る風習がありました。「枝垂れるような稲穂が収穫できるように」と団子を沢

お正月飾りの松は、主にヤマ(防潮林)から集めました

「神棚に上げるお正月様、カマド神様を宮司さんから預かり、地域に売り歩いて」というのは蒲生の太田みさをさん、新浜の平山正志さん。門松や正月飾りについては、風呂に入って体を清めてから注連縄を纏って自作していたという方が多くいました。「神棚に飾る、おなご松(赤松)の三階松を探すんだけど、なかなか新浜のヤマには無い、



▲今も守る人、参拝する人がいる大和神社

から苦勞した。今年は輪通しを自作するためにワラを頼んであるんだ」と話すのは平山和夫さん。また、「鍋沼では親鸞聖人の教えの上から、神棚を置かない家が多いのですが、お寺から離れた他宗が多い地区の門徒さんは神仏混合のようですね。震災後、除夜の鐘が撞けなくなって寂しいです」と専能寺の前坊守・足利邦子さん。



▲津波で流されず、無事だった平山正志さん宅の神棚

和田新田の大和神社においては「暮れに掃除をして、叶緒(鈴に付ける奉納の赤い帯)を取り替えて鏡餅を供えている」と我妻勝・美智子さん。同様に地域のお地蔵さんにも餅を供えています。新たな年を迎えるための準備を済ませると、自然と気持ちも切り替わるものです。

年取りの晩はナメタガレイやタラを食べるという方が大多数でした

「午前中、門に杭を打ち、松とお幣束、ユズリ葉、昆布を付けた門松を設置した」というのは和田の村上幸一さん。「午後、船に祀ってある船霊(神棚)に松飾りを付け、鏡餅や酒、塩、水を供えてから甲板や網にも塩、酒を撒く」というのは蒲生の漁師、伊藤新造さんです。年取りの食事では、暮れに近づくにつれ沼の二瓶進さん宅では、神様には塩で味

「午前中、門に杭を打ち、松とお幣束、ユズリ葉、昆布を付けた門松を設置した」というのは和田の村上幸一さん。「午後、船に祀ってある船霊(神棚)に松飾りを付け、鏡餅や酒、塩、水を供えてから甲板や網にも塩、酒を撒く」というのは蒲生の漁師、伊藤新造さんです。年取りの食事では、暮れに近づくにつれ沼の二瓶進さん宅では、神様には塩で味

大晦日



▶下岡田の三浦さん宅では男膳と女膳を組にして供えています

※ご協力頂いた皆さん(敬称略) 蒲生/伊藤新造、太田みさを、高橋孝蔵、平山みつ子 和田/村上幸一、我妻勝・美智子 南蒲生/足利邦子、遠藤きよ、二瓶進・慶子、吉田リツ子・京子 新浜/平山和夫・一子、平山正志、平山造子 下岡田/三浦明

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

10月9日(水) 直播による稲作、無事収穫 (南蒲生)



岡田生産組合南蒲生班による直播での稲作は、1反歩(10ア)あたりの平均収量が約6.3俵となり、同地区3年ぶりの稲作は当初の見込みを上回り、組合の皆さんたちもホッと一安心。来年は今年の10倍にあたる約20%の直播が予定されています。

11月2日(土) サーファーとふるさと蒲生をきれいにする会 (中野小学校跡地~蒲生海岸沿い)



ふるさとの海岸を皆できれいにしようと、中野小学校区復興対策委員会が海を愛するサーファーたちや中野4町内にお住まいだった方々などを中心に参加者を募り、蒲生海岸周辺で清掃活動を行いました。集まった約300人の参加者たちは中野小学校跡地から蒲生の海岸までゴミを拾いながら歩き続け、それぞれに蒲生地区の早期復興を願っていました。清掃後は美味しい芋煮汁に舌鼓を打つなど、笑顔の絶えない1日でした。

わたしの近況報告

第17回

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅などにお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



佐藤さんご一家(中野・和田)
(左から)真美さん、美那海さん、由美子さん、響さん

心で繋がっていた震災の日

一家が和田に家を建てて引っ越したのは、由美子さんの長女・真美さんが3歳の頃。「親よりも多く膝の上に乗っていた(笑)」ほど懐いていたおんちゃんが近所にいるなど、約30年におよぶ家族の楽しい思い出が和田にありました。震災当時、

中野小学校3年生だった真美さんの長女・美那海さんと、1年生だった長男・響さん姉弟は同校で被災し、学校の仲間や地域の皆さんと不安な一夜を過ごしました。孫たちを心配した由美子さんは、津波の情報を知らずに扇町の職場から車で和田へ向かう途中、すれ違った男性の「津波だ!」という叫び声に慌てて引き返し助かりました。私用で出かけた岩沼市で被災した真美さんが仙台市内に戻れたのは、深夜近く。子どもたちの安否確認に奔走しました。

確定通知に「ヤッター!」

多賀城市にある由美子さんの長男・雄一さん宅に約1ヵ月お世話になった後、一家は福室の借り上げ民間賃貸住宅に引

越しました。「4月17日。偶然ですが美那海の誕生日でした。お祝いと言ってもその頃はまだ子どもたちは精神的に不安定で、泣いたりしていましたから。隣の部屋に行くにも付いて来たり」と、真美さんは当時を振り返ります。

やがて、新生活を送る一家に心強い「ご近所さん」ができました。動物好きな4人が、愛犬ボボを連れて近隣アパートの瀬戸山さんと急接近。今では親せきのような間柄で、姉弟の学校行事にも一緒に顔を出します。元の地域の方々とは個別に連絡を取り合ったり、飲み会に由美子さんが参加したりと交流が続いています。

10月下旬、佐藤家にうれしい通知が届きました。「復興公営住宅戸建住宅用地確定」にひと安心する年の瀬です。

読者から
ひびく

●震災後に始めた犠牲者を弔う供養では、千日を目指して毎朝蒲生の十七カ所をまわって線香を手向けているんだ。五百日目からはお袋も同行している。毎日の供養のため、宿泊を伴う旅行は全て断ってきた。千日目に当たる十二月三日がひとつの区切りだ。
鈴木富男さん

●震災で失くした携帯電話へ、当時、いろいろな方から私を案じてくれるメッセージがはいつていました。まさか残っているとは知らずに、つい最近になってそのメッセージを聞きました。改めて感謝し、温かな気持ちになりました。
佐藤美枝子さん

●年内中に、福田町の仮設住宅から修繕が終わる新浜の我が家へ家族四人で戻る予定。正月はなんとか新浜で迎えられそうだね。自分のうちで早く寝てみたい。
平山博幸さん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

個々の生活再建と復興を迅速に進めるため、南蒲生独自の復興まちづくりを進めています。

十月二十七日(日)定例合同役員会

内容

- 津波避難施設の建設について
- 町内防災避難訓練について

当日の様子

岡田会館敷地内に建設予定の避難タワーについては、法令上の要件として、新たに県道側などからの接道が必要となること、交通局岡田出張所跡地に建設予定の避難ビルについては、共同で使うことになる新浜町内会との協議を計画していると報告がありました。また今冬、避難の実態を把握するため、避難先やルートを設定せずに各々の判断に任せた防災避難訓練の実施を検討していること、行政の推す生垣緑化助成に対し、地域の実情に即した南蒲生版を要請中との報告がありました。



問い合わせ先
代表 芳賀正 080-1663-7382
会合は随時開催
住民説明報告会
毎月最終日曜日 岡田会館
※12月は22日開催

新浜町内会復興部委員会

安全安心を基本方針に、新浜の復興再建に重点を置いたまちづくりを目指しています。

十一月十一日(月)

内容

- 高砂地区地域懇談会の報告
- 通学路の交通標識設置に関する協議

当日の様子

新浜町内会が行政に要望していた事項への回答が、高砂地区地域懇談会でなされたとの報告がありました。町内の移転予定者の土地有効活用についての回答報告に対し、出席者からは、町内に残る空き地の売買条件の緩和が本道の復興に繋がるとして、柔軟な対応を求める声がありました。また、岡田小学校の通学路の歩道確保に関しては、子どもの視点で考えていく重要性が確認された他、交通標識の設置箇所について検討しました。新浜町内女子会の今後の活動日程についても報告がありました。



問い合わせ先
代表 遠藤芳広 090-2020-4002
会合は随時開催
新浜仮設集会所

中野小学校区復興対策委員会

中野地区四町内会(港、蒲生、西原、和田)が「丸」となり、復興に向けた活動を行っています。

十一月三日(日)定例会議

内容

- 「サーファーとふるさと蒲生をきれいにする会」の報告
- 復興事業局から説明と報告

当日の様子

十一月二日に行なわれた蒲生清掃と芋煮交流会について、委員会から報告がありました。参加者から「懐かしい人に会えて良かった」などの声が多く、時には外での交流会が必要と再認識しました。加えて、悪質な不法投棄が多い現状を行政側に訴え、改めて改善策の検討を申し出ました。復興事業局からは十月三十一日の市内五地区の合同起工式と荒井東宅地申込状況の報告、「蒲生北部区画整理事業」に関する都市計画変更の公聴会等の予定、事業計画最終案の説明会予定について報告がありました。



問い合わせ先
委員長 高橋實 022-258-3068
定例会議
毎月第1日曜日 16:00~
高砂市民センター2階会議室

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください

お手玉サークルたんぽぽの お手玉遊び支援

東日本大震災から二年半あまり。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいます。支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「それじゃあ、今度は曲に合わせてお手玉をしましょう。ハイッ！と言ったら向かい合っている人と交代ですよ」

若林区にあるサンピア仙台の一室で十月末、お手玉サークル「たんぽぽ」による、被災された方を対象にしたお手玉教室が開かれました。震災後四度目の集まりで、指導役の「たんぽぽ」代表、菊池治枝さんの高らかな声が響き渡り、十五人ほどの女性が約二時間、和気あいあいと昔ながらの遊戯に興じていました。

女性たちは、「たんぽぽ」のメンバー以外は全員荒浜地区出身で、現在は借り上げ民間賃貸住宅で暮らしています。「かっちゃん、あやちゃん、せっちゃん」。菊池さんは、仲良しの友だちに接するように、全員に下の名前呼びかけます。「参加してくれる皆さんの名前、もうちゃんと

覚えましてよ」と笑顔の菊池さん。童謡など広く知られた曲に合わせて、それぞれお手玉を手で操ったり、向かい合って手渡し合ったり。なんだか皆さん、童心に帰ったような様子でとても楽しそうです。



車座になってお手玉を楽しむ参加者たち

場所を取らず手軽に楽しむことができるお手玉は、適度な運動になり、脳の働きを活発にしてくれます。菊池さんは以前、自身が見舞われた大病を機にその魅力を再発見して、二〇〇七年にサークルを発足させ、仙台市などで普及活動を始めてきました。震災後、その経験を生かし、お

手玉遊びを通じた支援にも取り組んでいます。参加者たちは、荒浜地区ではご近所さん同士で顔見知りの間柄でしたが、それぞれ別々の地域で生活しているため頻りに顔を合わせる機会が少なく、お手玉教室が貴重な再会の場にもなっています。初めて参加したという二瓶美恵子さんは、「友だちに誘われて来たけれど、また教室が開かれたら参加したいです。菊池さんは面白くお手玉を教えてくださいませんか？」

と話しました。「そんな真面目に愚痴とか悩み事は話さないけど、やっぱりこうやって集まると楽しいんだ」と話すのは、初回から欠かさず参加している末永利子さんです。菊池さんは話します。「教室での二時間を、皆さんが、一瞬でもいいから心配事を忘れて笑っていられるような時間になりたいんです。お手玉はすぐに夢中になれるのでいいですよ。お手玉教室開催の希望があれば、可能な範囲でうかがいます」



参加者を見守る「たんぽぽ」代表菊池治枝さん

お手玉教室の開催日程
参加無料、直接会場へ
毎月第2火曜 河北・TBCカルチャー教室
第4火曜 河北・TBCカルチャー教室
第1水曜 宮町教室(青葉区宮町5-2-104)
第1金曜 宮町教室
第3木曜 仙台市市民活動サポートセンター
※仮設住宅などへの出前出張の日時は、不定期のため直接菊池さんにお問い合わせください。
問い合わせ/
090-1399-2816(菊池、16:00~)
※いつでもお手本を見ながら、お手玉に取り組めるよう、1枚1500円でDVDを販売しています。DVDの問い合わせは、20世紀アーカイブ仙台022-387-0656まで

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

たかさご社協まつり

「いきいき高砂! みんなで手をつなごう」

高砂地区社会福祉協議会と高砂市民センターが主催するお祭りが開催されます。地域の子どもたちのステージ発表や福祉活動紹介コーナー、岡田の食材を使用したとん汁などの無料屋台もあります。是非ご参加ください。

対象 どなたでも参加できます

時 12月7日(土)10:00~14:00

場所 高砂市民センター

内容 ステージ発表、福祉活動紹介コーナー、とん汁・おにぎり・玉こんにゃくなどの無料屋台

問 高砂市民センター 022-258-1010

大震災2年経過後の「心のケア」

震災時の体験を語り、聴くことを通じて心の悩みからの回復を目指す自助グループ「仙台心のケア研究会」による「仙台ピアカウンセリングの集い」が行われます。

対象 20名(今回の地震で心が痛み悩んでいる方とその家族、精神障害当事者、医療・福祉・ボランティア関係者)※電話かEメールにて要予約。当日、席に空きがあれば予約なしでも歓迎します。参加無料

時 12月8日(日)14:00~16:00

場所 仙台市福祉プラザ10階(青葉区五橋2-12-2)

申・問 080-3328-7186 仙台心のケア研究会(吉村)

Eメール:qqw59pk@star.ocn.ne.jp

仮設住宅のイルミネーションを見に来てください

高砂一丁目公園仮設住宅では、年末年始のイルミネーション装飾を行っています。蒲生出身の武田繁三郎さんが時間をかけて装飾した力作を見に来てください。

対象 どなたでもご覧になれます

時 ~2014年1月15日(水) 17:30~21:00頃

場所 高砂一丁目公園仮設住宅談話室脇

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
黒松サロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方	12月6日(金)	10:00~12:00	黒松市民センター	コミュニケーション麻雀	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
いくねおちゃっこの会	六郷地区で被災された方、元六郷地区にお住まいの方	12月11日(水)	10:00~12:00	六郷市民センター	年忘れ演芸大会	要 (電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
びへちサロン	福島から避難され主に太白区のみなし仮設にお住まいの乳幼児のいる世帯	12月18日(水)	10:00~12:00	富沢市民センター	お楽しみクリスマス会	要 (電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
団子木づくり	宮城野区のみなし仮設にお住まいの方	12月20日(金)	10:00~13:00	高砂市民センター	お正月用の団子木をつくります	要 (電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
音楽の力で元気になろう!! 旭ヶ丘みんなのコンサート	旭ヶ丘市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	12月21日(土)	13:30~15:00	旭ヶ丘市民センター	復興支援コンサート	要 (電話か返信はがき)	支えあいセンター あおば 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

酒は生涯の盟友

徳照寺 住職

佐藤 和丸

尾籠びろうな話ですが、五年前、私が六十一歳の時に初めて経験したことです。ある程度の酒量を超えると排尿トラブルが生じるといふことが判明致しました。前の晩に深酒をすると、翌朝オシッコが膀胱に満タンになってもタラ〜としか出て来ないといふことです。最初の時は一体何が起ったのか全く解かりませんでした。丁度その朝は日曜日だったので、休日診療をやつてゐる病院に慌てて駆け込みました。泌尿器科のない病院でしたので外科にまはされ、その診察の順番を待つのも苦しかったです。もう帝王切開でも何でもいいからいつときも早く出して欲しくて感じてました。やつと私の名前が呼ばれ、パン〜の下腹部を医師が押しつつ（やめるよ!!）女性の看護師さんとふたことみこと（あつ、先端から管を入れて導尿だな?）と覚悟しました。途中で形が変はつたらどうしようとかいふ恥かしさなどその苦しさに吹っ飛んでをりましたア。懲りずに私はこの後二度も別の病院で導尿してもらつてゐます。「こいつ趣味で来てんぢやないか」と思はれることを恐れ飲酒を控へやうとしますが駄目。実は昨日も危なかつたのですヨ。皆さんもお酒はほど〜に。

佐藤和丸(さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2	3	4	
5		6		B
		7		8
10	11		12	
A				E
	13	14		
15		16		17
		18		19
			C	

タテのカギ

- 12月未まで、仙台市の冬を幻想的に演出する「光のページェント」。1日に3回、全消灯の後に再点灯させる「スターライト・○○○○」は必見
- JR仙台駅とおおば通駅とを結ぶ連絡通路は、仙台市を代表する歩行者用の○○道
- 2014年は午年。実は仙台市にも1949年から60年まで、太白区東郡山付近に市営の○○場がありました
- まとまりなく続く、○○○○のない話
- 復興のキャッチフレーズでも聞かれる言葉。離れがたい結びつきです
- 人気のあるタレントや運動選手など
- 「暇」を3文字で読むと?
- バター、ペーパー、カービングなどの種類が
- 天地創造以前の秩序なき状態
- 初詣ででも見られる縁起物、松川だるまの色といえば?
- 午年といえば、○○政宗公がまたがる愛馬の名前は「五島黒」

ヨコのカギ

- 帯を締めた和服の上から羽織る上着。花嫁衣裳で見られます
- 市にある石ノ森章太郎ふるさと記念館でも、「光のページェント」が冬の風物詩。こちらは1月3日まで
- ヤリ、スルメ、ダイオウなどの種類が
- 国分町通、東一番丁通に並行する○○○小路
- 敵意を持って立ち向かうのは、○○を剥く
- バレーボールでセッターが上げます
- 問題を出して答える遊び。このパズルのカギも一種でしょう
- 年取り魚として仙台の大晦日の食卓を飾る、○○○ガレイ
- サンタクロースを乗せたそりを引く動物
- 「海女」の読み方は?
- と同様に神社から受け、家庭にお正月様(御神像)をまつるのも宮城県の伝統のひとつ
- るーぶる仙台は、仙台市交通局が運営する観光用の路線○○
- クリスマスの定番といえるチキンでも、独特の形の○○先

前回のこたえ

A モ B ミ C ジ D ガ E リ

でした。

1	2	3	4	5
イ	ン	カ	ク	ダ
5	イ	モ	ワ	タ
7	ト	ウ	ホ	ク
	11	ト	シ	12
13	ミ	14	ガ	ク
15	ノ	16	ゾ	キ
18	ク	19	キ	ク

編集後記

沢山の方に各家の正月の流儀を教えて頂きました。若水汲み、水連縄緬いなど今も続けているという方に敬意を払って、私も暮れに市場へネタを求めに出掛けたいと思います。(おおが)

仮設を出て建替えた自宅に戻った年配夫婦は「2人でも寂しくない」と。何故ならお正月には子ども、孫、曾孫が帰ってきて大賑わい。家族の笑顔はいつの時代も最高の宝物ですね。(佐々木)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL : 022-390-5755
FAX : 022-390-5756 e-mail : kawara@mmmm.or.jp